

松浦鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間
20～22年度

公共交通機関は、安全・安心な地域の住民の移動手段として、人と環境に優しく、地域の交流人口を増加させ、地域の活性化に寄与するものであるため、積極的に利用促進を推進することにより、利用者の減少に歯止めをかけ、ひいては利用しやすく市民に親しまれる公共交通とすることを目標とする。

【松浦鉄道沿線地域公共交通活性化協議会】佐世保市、伊万里市、平戸市、松浦市、有田町、佐々町、住民代表、松浦鉄道、西肥自動車、佐世保旅客船協会、JR九州、国(九州運輸局・長崎支局、オブザーバー)、県(長崎県・佐賀県、オブザーバー)

(1) マイレールフォト&絵画コンテスト
(285千円)



(2) 皆瀬駅パークアンドライド駐車場
(2,653千円)



(3) 大学駅パークアンドライド駐輪場
4,321千円



(6) 共通乗車券の導入
(55,892千円)



(4)(5) JR九州への乗入(実証運行)佐世保駅～ハウステンボス、観光快速列車の運行(たびら平戸口まで) (2,894千円)

20年度からの継続事業として①～④の駅において、訪問証明書の発行、トレインアンドサイクル(電動自転車のレンタル)、パークアンドライド用駐車場の整備を行っている。



22年度 導入への プロセス

(1) マイレールフォト&絵画コンテスト事業において、平成21年度は写真の作品の応募数は増加したものの、絵画の作品数は減少した。平成22年度の事業に向けて、例年より早い時期に、学校を通じて、作品募集のお知らせを行う等の事業の準備作業の改善を行った。

(2) パークアンドライド用駐車場の利用は、平成22年3月20日に西九州自動車道が沿線地域迄延伸したことから、MR通勤者がマイカー通勤に流れる等、厳しい利用環境となった。22年度は新たな駅の整備も予定していたことから、松浦鉄道では直接、企業を訪問する営業活動を行ったり、通勤定期購入時のお客さまにチラシを配布し利用促進を促した。

(4) JRへの乗り入れ(佐世保駅⇄ハウステンボス駅)事業の利用状況は平成21年度は年間1,199人(1便あたり平均約1.6人)と低迷していた。本来なら、ダイヤの見直しにより利用者の増加につなげたいところだったが、JR九州のダイヤ改正は平成23年3月の予定であり、22年度末のダイヤ改正はできなかった。そこで、ダイヤ改正の協議は継続しながら、ハウステンボスの活性化が利用者増につながることを期待して、松浦鉄道としてもハウステンボスのリニューアルのPRに協力した。

(6) 共通乗車券(長崎スマートカード)の導入については、平成21年度にハードの整備及び机上でのシステム確認が終了したが、22年度のバス事業者等とのシステム連携がトラブルなく行えるかが、最大の課題となっていた。過去に長崎電気軌道が長崎スマートカードを導入した際に、連携の部分で本番稼働後にトラブルとなった経緯がある。本協議会及び事務局には開発状況を松浦鉄道から定期的に報告させると共に、稼働に向けた利用者への周知について、松浦鉄道のみならず、各自治体からの情報発信によってPRすることにした。

マイレール意識の高揚

(1) マイレールフォト&絵画コンテストは、マイレール意識の向上の一環として、より多くの方に応募していただくため、PRの強化に努めた結果、写真の部は116作品、絵画の部は143作品と本協議会事業3年間の中で最も多い作品数となった。

利便性の向上(乗り継ぎ)

(4) JR九州への乗り入れについては、平成22年度においては、年間1,495人(1便あたり平均約2.0人)と対前年比1.2倍程度となった。平成21年3月14日からの実証実験の運行中であり、少しずつ利用者に浸透はしてきた。

観光利用の促進

① たびら平戸駅における訪問証明書の発行については、平成21年度迄は、販売のみであったが、22年度については、大手旅行会社の企画旅行商品に松浦鉄道に乗り乗る企画を入れてもらうことで、訪問証明書の増売と乗車利用者の増加との相乗効果を狙い、22年度は約2,500人の乗車があつている。また、訪問証明書の発行は約5,000枚となり、様式のリニューアルをしてすぐの昨年よりも少なくなったものの定着したことが伺える。

(5) JR九州への乗り入れ区間の運行に続いて、たびら平戸口までの観光快速列車が運行されているが、平成21年度は平均約14人/便であったところ、平成22年度は、約12人/便であった。

潜在利用の掘り起こし

(2) 皆瀬駅パークアンドライド用駐車場は、佐世保市のベッドタウンである沿線地域からの佐世保市中心部への通勤時に、中心部の渋滞を避けるために、県道と市道の結節点近くの皆瀬駅の需要を予測して整備したものである。整備前までは空き地状態であったため、不法駐車や不法投棄により、本来の駐車スペースが確保できなかったものが、25台の駐車スペースが確保でき、平成22年度末で15台の契約があつている。(3) 大学駅パークアンドライド用駐車場は、整備前は自転車がかたがた敷かれたり、駅外の私道にはみ出すなど、景観も悪く、近隣の方へ迷惑をおかけしていたが、駐輪台数も60~70台から90台が可能となり、利用者及び近隣の住民から好評である。

(6) 共通乗車券の導入として、主に長崎県内のバスや長崎電気軌道と共通して利用できる長崎スマートカードを松浦鉄道へ導入し、平成23年3月12日のダイヤ改正時に、佐世保中央駅のエレベータ設置稼働と同時に運用を開始した。開始月の3月は半月で364枚のカード発行があり、便利になったとの多くの利用者からの声が聴かれている。

まとめ(3年間の効果、課題を検証しさらなる効果的な取組みの浸透により利用促進を図る。)

平成20年度利用者は対前年比△2.1%減の2,960千人、平成21年度は対前年比1.8%減の2,907千人、平成22年度は、対前年比0.3%減の2,898千人となっている。本協議会事業の効果が下げ止まりの現象の一因となって表れたものと考えられるが、高速道路の無料化実験は終了したものの、平成23年度中には、西九州自動車道が更なる延伸となることから、地域で守る公共交通と地球温暖化問題の意識の向上等について、交通事業者のみでなく、本協議会のメンバーとなっている自治体も情報発信を積極的に行っていく必要がある。また、再生総合事業の3年間の取組みは終了したが、連携計画は継続しているため、本協議会における、事業進捗状況の把握や公共交通の活性化に向けた意見交換を行っていく。

(1) 「マイレールフォト&絵画コンテスト」は、応募作品数が増加している中、さらなる拡大を図るため、保育園や幼稚園にもPRを広げていく。

(2) ②③「パークアンドライド駐車場」については、西九州自動車道が平成23年度末に、佐々ICまで延伸する予定であり、さらに、本事業にとって厳しい環境となることから、更なるPR強化として、佐世保中心部周辺企業へのチラシ配布やメディア利用についても検討する。

(3) 「大学駅パークアンドライド駐輪場」については、駐輪スペースが拡大され、利用者の利便性向上の他、駅景観もよくなった。今後は、駐輪場利用時の注意事項について、学校を通じた生徒指導により、駐輪場整備の効果が低下しないための取組みを行う。

(4) 「JR九州への乗り入れ」については、平成23年3月12日のダイヤ改正以降、ハウステンボス迄の観光を目的として乗り入れでなく、早岐駅までの買い物列車としての位置づけに変更して、利用者の増加を図る。

(6) 「共通乗車券の導入」では、利用者の利便性向上の他、乗車データの分析によって利用者の増加につながる対策に取組む。

その他、トレイン&サイクル、訪問証明書等の利用促進については観光部署との連携を強化していく。

22年度 事業の 効果

次年度 以降